

京芸通信 23

Kyo-gei Tsushin

京都市立芸術大学広報誌
2019年1月発行



秋山陽《Echoes》H112cm × W1000cm × D226cm 陶・鉄粉（2016–2018年）撮影：来田 猛

秋山陽教授退任記念展

はじめに土ありき

本学着任当時の作品と最新作、新旧の大作を対比的に配置したこの退任展では、30年の時を隔てた2作品に焦点を絞り、両者に通底するもの、そして違いを際立たせました。その他小作品の展示と併せて、秋山教授の作品制作の変遷を俯瞰的に示す展示となりました。

2018/11/10 [土] -25 [日] @KCUAにて



《カタログ》展覧会カタログ・ポリエステル樹脂（1990年代）撮影：来田 猛



《Oscillation II》H51cm × W600cm × D167cm 陶（1989年）撮影：来田 猛

Contents

- P.2 京芸トピックス — 芸大祭2018開催／次期理事長に赤松玉女／演奏旅行／京都銀行による学生作品のご購入／定期演奏会／下京雅小学校での水墨画体験
- P.4 京芸の教員に訊く — 佐藤知久教授（芸術資源研究センター）
- P.5 Kyo-gei Event Schedule — これからのイベントスケジュール（展覧会／演奏会／公開講座等）
- P.8 退任教員のお知らせ／移転整備基本設計の策定／ご寄付のお願い

Kyogei Topics

京芸トピックス

京都芸大では学生、教員が年間を通じて多岐にわたる活動を行っています。
ここでは学内における最近の主なトピックスをご紹介します。

京芸生は宇宙人？ 芸大祭 2018「僕らの地球侵略計画」を開催しました。

11月3日(土)から5日(月)まで、毎年大盛況のイベント「京都市立芸術大学祭」を開催しました。今年のテーマは「ぼくらの地球侵略計画」。外部からはどのような活動をしているのかわからない「宇宙人」のような京芸生が、「侵略計画」の名のもとに、自らの魅力を来場者にアピールし、日頃の活動をもっと知ってもらいたいという思いが込められています。

芸大祭では、京芸生らしい個性豊かな飲食店や物販ブースとともに、本学ならではのパフォーマンスなど見どころが盛りだくさんでした。NHK 交響楽団で首席チェリストを務め、本年度より本学に着任された向山佳絵子准教授と学生オーケストラによる演奏会を開催したのをはじめ、創設 38 年の老舗クラブ「芸大ミュージカルグループ (GMG)」は、美術学部生の舞台美術と、音楽学部生のオーケストラ生演奏によるミュージカル「ごきげんよう、さようなら」を披露しました。さらに、日本で唯一の「常磐津部」による「芸大 kabuki」や、アーティスト・清川あさみ氏の講演会など多数の催しを開催し、本年も多くの方にご来場いただきました。



模擬店 撮影:上原 徹



常磐津部「将門」



向山佳絵子准教授(チェロ)



芸大ミュージカルグループ(GMG)「ごきげんよう、さようなら」 撮影:上原 徹

次期理事長予定者に 赤松玉女美術学部長を選出しました。



2019年3月31日をもって現理事長(鷺田清一)の任期が満了することに伴い、学内で意向投票を実施し、現美術学部長の赤松玉女を次期理事長予定者に選出しました。任期は、2019年4月1日から2023年3月31日までの4年間で、2019年4月1日付けで京都市長から任命される予定です。また、同任期で京都市立芸術大学学長を兼ねることとしております。

音楽学部の学生が演奏旅行に行ってきました。

音楽学部の学生は、授業とは別に、毎年休暇を利用して自主的な演奏旅行を行っています。今年度は9月3日(月)から6日(木)にかけて有志64名が参加し、岐阜県内の5つの小学校で公演を行いました。アニメの曲を演奏した楽器紹介や子どもたちによる指揮者の体験会など親しみやすい内容で楽しんでいただき、本格的なクラシック音楽に触れる機会が少ない子どもたちに音楽に興味を持ってもらうことができました。学生にとってはレパートリーの拡大やアンサンブル技術の向上、学生同士の団結につながっています。また、演奏旅行の一環として、9月8日(土)には地元の桂坂小学校で26回目となる「カザラックコンサート」、9月29日(土)には長岡京芸術劇場にて「学生オーケストラの響宴」を開催しました。





↑今年度ご購入いただいた作品(一部)

京都銀行に今年も学生作品を ご購入いただきました。

11月21日(水)に、京都銀行「美術研究支援制度」の目録贈呈式が開催されました。本制度は、本学の学生が制作した作品の購入を通じて制作者の美術研究費用を支援するとともに、銀行内外で購入作品を展示し、幅広い方々に鑑賞いただくことで優れた芸術の創造・振興に寄与することを目的に2001年に創設されました。本年度で18回目を迎え、今年度の8点を加えて、これまでに合計141点の作品をご購入いただいております。

贈呈式には、京都銀行から土井頭取、岩橋常務、羽瀨部長、本学からは、鷺田学長、赤松美術学部長らが出席し、土井頭取から対象者に目録が手渡されました。

今回ご購入いただいた作品は、1月15日(火)から2月22日(金)まで同行本店1階ロビーに展示されます。



第159回定期演奏会を開催しました。

12月9日(日)、京都コンサートホールにおいて、第159回定期演奏会を開催しました。

今回は、本学客員教授の尾高忠明氏指揮の下、第158回で演奏されたモーツァルトの31番に引き続き「交響曲第32番」、日紫喜恵美准教授によるソプラノ独唱が大きな聴きどころのひとつであるプーランク「グローリア」、そして名前が世界に知られるきっかけとなったエルガーの「エニグマ変奏曲」を演奏しました。たくさんの方のご来場、誠にありがとうございました。

指揮：尾高 忠明 (本学客員教授)
ソプラノ独唱：日紫喜 恵美 (本学音楽学部声楽専攻准教授)
管弦楽：本学音楽学部・大学院管弦楽団
曲目：W.A. モーツァルト/交響曲 第32番 長調 K.318
F. プーランク/グローリア
E. エルガー/エニグマ変奏曲 Op.36



撮影：上原 徹

下京雅小学校で 水墨画の体験学習を実施しました。

日本画研究室では、日本画の研究と教育の成果を広く社会に発信するため、実技講座や教育現場での交流事業、学生の社会参加等の活動に取り組んでおり、下京雅小学校において水墨画の体験学習を実施しました。

6年生の総合的な学習の時間「みやび学習」では、伝統文化について学んでおり、室町時代を代表する文化人、雪舟の確立した水墨画にチャレンジしました。講師は、日本画専攻の川嶋渉教授、奥村美佳准教授、三橋卓講師と大学院生6名が務めました。

筆づかいの練習の後は、手本を見ながら水墨画にチャレンジしました。最初は慎重な筆運びだった子どもたちでしたが、慣れてくると思い思いのタッチで描いていき、講師陣も感心するほどの作品に仕上がりました。



京芸の先生に訊く。 Interview

芸術資源研究センター

佐藤 知久 准教授

2014年4月に本学に設置された芸術資源研究センター（略称：芸資研）に、昨年度着任された文化人類学者の佐藤知久准教授にお話を伺いました。

Profile

佐藤 知久 [さとう・ともひさ]

1967年生まれ。京都大学文学部哲学科（哲学専攻）卒業。京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了。博士（人間・環境学）。京都文教大学人間学部文化人類学科専任講師、同総合社会学部総合社会学科准教授等を経て、2017年度より京都市立芸術大学芸術資源研究センター専任研究員／准教授。日本文化人類学会会員。

一 芸資研ではどういった研究をされているのですか？

美術や音楽などの芸術作品だけでなく、色々な資料や時代背景など、作品の制作に影響を与えたものも「芸術資源」として捉えなおそうと考えています。そうした芸術資源をどのようにアーカイブ化し、どのように使うことが、新たな芸術創造を生み出すために効果的であるかという研究を行っています。私たちはそれを「創造のためのアーカイブ」と呼んでいます。

一 専門の文化人類学とはどのような学問ですか？

人類の進化などを研究する自然人類学に対して、人類の文化的側面、つまり人間の生き方の多様性について、フィールドワークを中心に調査・研究する学問が文化人類学です。私が学生の頃は、南米やアフリカを研究テーマにする人が多く、私も大学院に入る前は、モロッコの都市文化について研究しようと思っていました。

一 学生時代から現在まで、どのような活動がされてきたのですか？

当初はモロッコの研究をしようと思っていたのですが、途中で研究テーマを変更し、HIVに感染した人々と共に生きる社会を実現しようとしている人たちのフィールドワークを始めました。以前から親交があったアーティストグループ「ダムタイプ」の中心的メンバーだった故古橋悌二氏（修士課程構想設計修了）が、HIVに感染したことを公表したことがきっかけです。そのような流れで、当時から京芸の様々な方と深く交流があったので、芸資研で働くことになったのは自然の流れかもしれません。

一 本学に着任されてからは、どのような研究をされているのですか？

「コミュニティ・アーカイブ」という考え方を軸に研究しています。これは鷺田清一学長が館長を務める「せんだいメディアテーク」の方たちが東日本大震災後に開始した、「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の活動から芽生えたものです。メディアテークでは、被災者自身や、外からやってきたアーティストなど多様な人たちが協働しながら、震災の記憶や復興のプロセスを記録してアーカイブにまとめています。このやり方を芸資研のアーカイブづくりにも活かせないかと考えています。

たとえば、ダムタイプの《pH》というパフォーマンス作品について、芸資研スタッフだけでなく、芸大生やさまざまなアーティストと協力しながらアーカイブをつくっています。また、新キャンパスの移転先となる京都駅東部の崇仁地区での歴史や生活についても、住民の方々と協力しながら聞き取りをはじめており、「崇仁小学校をわすれないためにセンター」として活動を始めています。

一 京芸の雰囲気はいかがですか？

一言でいうと「最後の大学」だと思います。最近では、専門学校のごとく教員が一方向的に講義を行う大学が増えてきていますが、京芸では、制作活動の主体性を学生に委ねています。将来、芸術家として独立したときに、自分自身で考えて行動できるよう、学生に探求する場を与え、教員は知識を詰め込むので

はなく、見守り、アドバイスを求められたときに助言するという雰囲気素晴らしいです。この伝統はぜひ継続してもらいたいですね。

一 京芸通信をお読みの方へ

2023年度のキャンパス移転を機に、さらに面白い大学にしようと思案中ですので、引き続き京芸に注目していただければと思います。

また、現在の沓掛キャンパスについても記録しておく必要があるため、今これを読んでいる方の中で、ここ沓掛キャンパスに関する写真やエピソードなどをお持ちの方は、芸資研まで是非ご連絡ください。次は「沓掛キャンパスをわすれないためにセンター」を立ち上げないと（笑）。



芸術資源研究センター シンポジウム 糸が紡ぐ音の世界

無料

日時 2/16 [土] 14:00

会場 京都市立芸術大学 大会館ホール

出演 藤枝守（作曲家／九州大学教授）、藤野靖子（美術学部教授）、柿沼敏江（音楽学部教授／芸資研センター長）、佐藤知久 他

織物やその技術を、一種の記譜法として読み解きながら、世界各地の「織り」を通して、織ること・記すこと・身体・音響の世界を探る、シンポジウムとコンサート。

書籍紹介

- ・単著『フィールドワーク2.0』（風響社/2013）
- ・共編著『世界の手触り：フィールド哲学入門』佐藤知久・梶丸岳・比嘉夏子編（ナカニシヤ出版/2015）
- ・共編著『コミュニティ・アーカイブをつくらう！』佐藤知久・甲斐賢治・北野央編（晶文社/2018）



Kyo-gei Event Schedule 2019

これからのイベントスケジュール

Exhibitions 展覧会

■ 京都市立芸術大学退任記念 永樂善五郎展

入場無料

会期 1/10 [木] - 1/31 [木]

会場 京都市立芸術大学 芸術資料館陳列室

2014年度より5年にわたり本学での指導に携わった永樂善五郎特任教授の新旧代表作を一堂に展示します。



吹墨鉢《宇宙1》(1974)

■ 状況のアーキテクチャー展

入場無料

会期 1/12 [土] - 2/11 [月・祝]

会場 @KCUA

文化庁助成事業「状況のアーキテクチャー」では、これまで3年のあいだアートと社会の出会いかたについて模索してきました。今回の展示では、プロジェクトの集約として、異なる場所から漂流してきたモノや言葉やイメージとヒトとの新しい出会いの場を演出します。



撮影：松見拓也

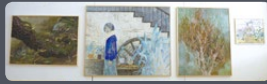
■ 2018年度 京都市立芸術大学 作品展

入場無料

会期 2/8 [金] - 2/11 [月・祝]

会場 京都市立芸術大学
元崇仁小学校

学部1回生から大学院修士課程2回生までの総勢約700名の作品が一堂に会する大規模な展覧会です。本学をメイン会場に、元崇仁小学校と合わせて2会場で開催します。



昨年度の様子

■ 美術学部 同窓会展

入場無料

会期 2/16 [土] - 3/3 [日]

会場 @KCUA

芸術資料館の収蔵品である松井紫朗《FLOWER VASE》(1986年大学院美術研究科彫刻専攻修了作品)の修復プロジェクトの成果発表を中心として、1980年代に在学した美術学部同窓会員が当時制作した作品を展示します。



松井紫朗《FLOWER VASE》(1986)修復プロジェクトの様子

■ 前田耕平 「パンガシアドン ギガス」

入場無料

会期 2/16 [土] - 3/3 [日]

会場 @KCUA

前田耕平は2018年タイ・チェンマイのアーティストインレジデンスに滞在し、メコン大鯨が生息するダムを舞台にリサーチを行いました。今回はその体験をもとに新作《パンガシアドン ギガス》を展示します。



映像からのスチル 撮影：呉屋直

■ 出原司退任記念展 「かいじゅう vs かいじゅう」

会期 3/9 [土] - 3/24 [日]

会場 @KCUA

入場無料

■ 移転整備プレ事業 教室のフィロソフィー Vol.08

松浦茜 個展

会期 3/9 [土] - 3/24 [日]

会場 ギャラリー崇仁

入場無料

■ 2019年度 芸術資料館収蔵品展 第1期 版画 版がつくる魅惑の世界

会期 4/11 [木] - 5/12 [日]

入場無料

会場 京都市立芸術大学 芸術資料館陳列室



木村秀樹《Two Chairs 3》(1975)

当館が収蔵する版画作品を紹介し、近年元教員から寄付されたものや、本学の版画研究室が1975年頃から収集していた国内外のものまで展示します。

◎ギャラリートーク：4/23 [火] 12:15-12:45

■ 京芸 transmit program 2019

入場無料

会期 4/13 [土] - 5/19 [日]

会場 @KCUA

本学卒業／大学院修了後3年以内の若手作家の中から、いま@KCUAが注目するアーティストを紹介するプロジェクト。今回は、黒川岳(彫刻)、寺岡波留(環境デザイン)、本山ゆかり(油画)、山本真実江(陶磁器)が展示します。



京芸 transmit program 2018 展示風景
撮影：来田 猛

■ 2019年度 芸術資料館収蔵品展 第2期 新収蔵品展

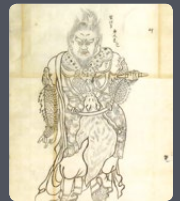
入場無料

会期 5/18 [土] - 6/23 [日]

会場 京都市立芸術大学 芸術資料館陳列室

2018年度に新収蔵した作品、資料を中心に本学学内で初お披露目します。

◎ギャラリートーク：6/18 [火] 12:15-12:45



憲海《十二神将絵》部分
(嘉永元年)

■ ジェン・ボー 個展 (タイトル未定)

会期 6/1 [土] - 7/15 [月・祝]

会場 @KCUA

入場無料

社会的に周縁化された集団や雑草などの植物に注目し、政治的な史実、アーカイブなどの過去の事象の調査にそれらを結びつけ、未来について考察するアーティスト、ジェン・ボー(1974年北京生まれ、香港在住)による個展。2019年1月の京都での滞在調査を経て制作された作品を中心に紹介します。



ZHENG Bo《After Science Garden》(2018)

■ 2019年度 芸術資料館収蔵品展 第3期 ROZOME 小合友之助に始まるろう染めの伝統

会期 6/29 [土] - 8/4 [日]

会場 京都市立芸術大学 芸術資料館陳列室

入場無料

ろう染めとは、防染に蠟を用いた染色法の一つです。筆を使って蠟を置く描き染めが特徴です。本学の染織専攻においても、戦後このろう染めによる表現が指導され、後進を輩出してきました。本展では、その指導にあたってきた小合友之助、佐野猛夫、三浦景生らの作品を中心に展示します。

◎ギャラリートーク：7/9 [火] 12:15-12:45



小合友之助《雨》(1953)

■ サンドラ・ビニオン 「蒸化 (ディスティレ)」 入場無料

会期 7/27 [土] - 8/18 [日]

会場 @KCUA

フロベールの小説『ボヴァリー夫人』のイメージとアイデアを「蒸留」することによって、作品の本質を「抽出」し、小説的雰囲気繊細に作り直す試み。会期中、柏木加代子本学名誉教授とビニオン氏によるトークイベント等の開催を予定しています。



© Sandra Binion



■ 文化会館コンサートII 入場無料 定員 400名

日時 2/6 [水] 18:30 開演

会場 京都市北文化会館

毎回一つの専攻がプロデュースする演奏会。各専攻が趣向を凝らした企画は、気軽に楽しくクラシック音楽に触れられるのが特徴。今回は作曲専攻生による作品を、実技専攻生が演奏する形の発表会です。



© DORIAN NAKAGAWA

■ 第160回 定期演奏会 大学院オペラ 申込終了

日時 2/16 [土], 17 [日] 14:00 開演

会場 京都市立芸術大学 講堂

大学院生による毎年好評のオペラ公演。本格的な舞台セットや衣裳、華やかな演出は一見の価値があります。[事前申込制※事前申込は終了しました]

■ 音×彫刻×身体@ALTI
また夜は来る

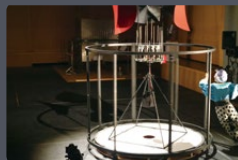
料金：一般 3,000円
学生(小学生以上) 2,000円

日時 3/9 [土] 19:00 開演

3/10 [日] 14:00 開演

会場 京都府立府民ホール “アルティ”

府民ホール “アルティ” と共同で、楽器でありながらも彫刻作品である音響彫刻とダンスで新たな舞台芸術を発信します。



■ 第48回 卒業演奏会 入場無料 定員 450名

日時 3/21 [木・祝] 14:30 開演

会場 京都府立府民ホール “アルティ”

音楽学部各専攻から成績優秀として選ばれた、卒業予定者を代表する実力者が演奏。歌等を披露。京都芸大の教育成果の集大成を味わえる演奏会です。



© DORIAN NAKAGAWA

■ ホワイエコンサート 入場無料 定員 100名

日時 5/11 [土] 17:10 開演予定

会場 京都国立近代美術館

京都国立近代美術館のホワイエ(ロビー)で開催。演奏者と観客の距離の近さが魅力。展覧会の内容にあった作曲作品を披露する予定です。



■ クロックタワーコンサート 事前申込制 入場無料 定員 500名

日時 5/18 [土] 15:00 開演予定

会場 京都大学 百周年時計台記念館

京都大学との大学間交流事業として実施します。(担当：指揮専攻/オーケストラ)



■ 第33回 ピアノフェスティバル 入場無料 定員 450名

日時 6/7 [金] 19:00 開演予定

会場 京都府立府民ホール “アルティ”

学内オーディションから選ばれたピアノ専攻生による演奏会。若きピアニストたちがピアノ楽曲の魅力をお届けします。協賛：京都ライオンズクラブ



撮影：上原 徹

■ ウェスティ音暦1 管・打楽専攻生によるアンサンブル 入場無料 定員 400名

日時 6/8 [土] 14:00 開演予定

会場 京都市西文化会館ウェスティ

地域の方をはじめとする市民の皆様気軽に足を運んでいただけるコンサート。大人から子どもまで楽しめる親しみやすいプログラムをお届けします。



■ 第161回 定期演奏会 料金:1,200円 定員 1,500名

日時 7/11 [木] 19:00 開演予定

会場 京都コンサートホール 大ホール

1953年に第1回が開催された伝統ある本学の定期演奏会。京都芸大の力を結集した演奏会は必聴です。



撮影：上原 徹



▲ 芸術資源研究センター×音楽学部

柿沼敏江 (音楽学部教授/芸術資源研究センター所長) 退任記念

フルクサスを語る 無料

日時 1/19 [土] 14:00

会場 京都市立芸術大学 大会館ホール

講演 柿沼敏江 「フルクサスと音」

シンポジウム フルクサス—起源・記憶・記録

一柳慧 (作曲家), 塩見允枝子 (作曲家), 建島哲 (美術評論家/多摩美術大学学長), 井上明彦 (美術学部教授) [コメンテーター], 柿沼敏江 [司会]

コンサート

一柳慧：電気メトロノームのための音楽 (1960)

小杉武久：ミクロ1 (1961)

塩見允枝子：無限の箱から—京都版 (2019), 多元的ロンド (縮小版)

出演：大井卓也, 上中あさみ, 北村千絵, 橋爪皓佐, 山根明季子ほか

▲ 伝音セミナー (後期) 第9回

国際文化振興会レコードの「俚謡」を聴く 無料

日時 2/7 [木] 14:40-16:10

会場：当日14時から受付開始

会場 京都市立芸術大学 新研究棟7階 合同研究室1

講師 出口実紀 (日本伝統音楽研究センター非常勤講師) 他

国際文化振興会は、日本の音楽の諸外国への紹介を目的とし、SPレコード集『日本音楽集』を1944年に完成。その中から「俚謡」(民謡)に注目し、音源を聴きつつ、当時の民謡レコードの傾向も探ります。

▲ 日本伝統音楽研究センター第 53 回公開講座

京都対談

事前申込制

無料

日時 2/15 [金] 13:00-14:30

定員 80 名

会場 京都市立芸術大学 大学会館交流室

講師 井上章一 (国際日本文化研究センター教授)
渡辺信一郎 (日本伝統音楽研究センター所長)



「京都嫌い」の著者で国際日本文化研究センターの井上章一教授と、京都生まれ、京都育ちで、今年度より就任した日本伝統音楽研究センターの所長の渡辺信一郎が、「京都」をテーマに語り尽くします。

▲ 日本伝統音楽研究センター第 54 回公開講座

平安から唐へ 糸で迎るいにしへの韻
—琵琶・箏の古譜による琴曲の再現—

事前申込制

料金 :1,000 円

日時 3/23 [土] 13:30-16:30

定員 240 名

会場 ウィングス京都 イベントホール

講師 渡辺信一郎 (日本伝統音楽研究センター所長)
ステイヴン・ネルソン (法政大学教授)
中村かほる (琵琶奏者)
武内 恵美子 (日本伝統音楽研究センター准教授)



日本の雅楽は遣唐使が招来した唐の音楽です。近年その古譜から当時の雅楽が研究されていますが、中には原曲が七弦琴曲であったものがあります。現在復元不可能とされる唐の琴曲を、雅楽の古譜の解釈から再現します。

▲ でんおん連続講座 (後期) F

カラダで検証する雅楽研究 その2

事前申込制

料金 :2,000 円

日時 ① 3/29 [金] 10:30-16:20
② 3/30 [土] 10:00-14:30
* 両日も昼休憩あり

定員 50 名

会場 京都市立芸術大学 新研究棟 7階 合同研究室 1
(コンサートは京都市立芸術大学 大学会館ホールで実施)

講師 田鉦智志 (日本伝統音楽研究センター准教授) 他

講師主催の雅楽研究会メンバーによるリレー講座。初日と2日目午前はレクチャー。2日目午後のコンサートでは、現行の雅楽や平安末・鎌倉期舞楽、平安末期唐楽和琴奏法の再現をお聴きいただきます。

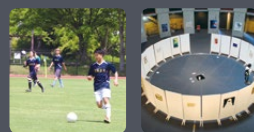


▲ 第 65 回 五芸術大学 体育・文化交歓会 (五芸祭)

日時 5/23 [木] -5/26 [日]

会場 京都市立芸術大学ほか

京都市立芸術大学、金沢美術工芸大学、東京藝術大学、愛知県立芸術大学、沖縄県立芸術大学の国公立芸術系大学 5 校による、芸術とスポーツの祭典「五芸祭」が、今年は京都で開催されます。今年のテーマは「京花水月」です。作品展や学生コンサートのほかアートマーケットなど楽しめるイベントが満載です。



▲ 京都芸大サマーアートスクール

事前申込制

有料

日時 7月下旬 - 8月上旬開催予定

会場 京都市立芸術大学

美術学部および大学院が企画する夏期講座。実技ワークショップ、講義、ディスカッションなど多彩な内容で、本学教員が直接指導します。京都芸大のカリキュラムを体験したい方にもお勧めです。* 6月上旬に本学ウェブサイトにて申込開始予定



様々な公開講座・研究会など開催中! 参加自由!

日本伝統音楽研究センター、芸術資源研究センターは、本学拠点の研究機関です。両センターとも、年間を通じて定期的に各種公開講座や研究会を開催し、その成果の発表と市民の皆様への還元を図っています。最新イベント情報は、下記ウェブサイトや SNS で随時発信中!

〈 でんおん連続講座 伝音セミナー ほか 〉

by 日本伝統音楽研究センター



<http://rcjtm.kcuu.ac.jp/>



〈 アーカイブ研究会 シンポジウム ほか 〉

by 芸術資源研究センター



<http://www.kcuu.ac.jp/arc/>



本学ウェブサイトでは、本学主催イベントの最新情報をご覧いただけます! <http://www.kcuu.ac.jp/event/>



会場案内 ※各会場へは公共交通機関をご利用ください。

▲ 京都市立芸術大学 京都市西京区大枝谷掛町 13-6

- > 京阪京都交通バス「芸大前」より徒歩すぐ
- JR 京都駅前バス乗場 C2 より 2・14・28 系統乗車 (約 45 分)
- 阪急桂駅東口より 1・2・13・14・25・28 系統乗車 (約 20 分)
- JR 桂川駅または阪急洛西口駅より 11A 系統乗車 (約 15 分)

■ 京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

- 京都市中京区押小路町 238-1
- > 地下鉄二条城前駅 2 番出口より徒歩約 3 分
- > 市バスまたは京都バス「堀川御池」より徒歩すぐ

■ ギャラリー崇仁 (元崇仁小学校内) 京都市下京区川端町 16

- > JR 京都駅中央口より徒歩 9 分
- > 地下鉄烏丸線京都駅ポルタ A3 出口より徒歩 7 分
- > 京阪七条駅 1 番出口より徒歩 6 分

● 京都市北文化会館

- 京都市北区小山上総町 49-2 (キタオオジタウン内)
- > 地下鉄北大路駅 1 番出口より徒歩すぐ
- > 市バス「北大路バスターミナル」より徒歩すぐ
- > 京都バス「北大路駅前」より徒歩すぐ

● 京都府立府民ホール“アルティ” 京都市上京区龍前町 590-1

- > 地下鉄今出川駅 6 番出口より南へ徒歩約 5 分。
- > 市バス 201・203 系統「烏丸今出川」より南へ徒歩約 5 分。

● 京都コンサートホール 京都市左京区下鴨半木町 1-26

- > 地下鉄北山駅 1 番または 3 番出口より南へ徒歩約 5 分

● 京都国立近代美術館 京都市左京区岡崎円勝寺町 26-1

- > 市バス「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」または「岡崎公園 美術館・平安神宮前」より徒歩すぐ
- > 地下鉄東山駅より徒歩約 10 分

● 京都大学 百周年時計記念館 京都市左京区吉田本町

- > 京阪出町柳より東へ徒歩約 20 分
- > 市バス「百万遍」または「京大正門前」より徒歩約 10 分

● 京都市西文化会館 ウェスティ 京都市西京区上桂森下町 31-1

- > 阪急上桂駅から徒歩約 15 分
- > 市バス 29・69 系統「西京区役所前」より徒歩約 2 分
- または 73 系統「平和台町」より徒歩約 5 分
- > 京阪京都交通バス「千代原口」より徒歩約 10 分

▲ ウィングス京都 イベントホール 京都市中京区御射山町 262

- > 地下鉄丸御池駅 5 番出口より徒歩約 5 分
- > 地下鉄四条駅/阪急烏丸駅 20 番出口より徒歩約 5 分

2018年度末に5名の教員が退任

2018年度末に、美術学部版画専攻の出原司教授、プロダクト・デザイン専攻の塚田章教授、陶磁器専攻の永樂善五郎特任教授、秋山陽教授、音楽学部音楽学専攻兼芸術資源研究センター所長の柿沼敏江教授が退任されます。



出原 司 教授



塚田 章 教授



永樂 善五郎 特任教授



秋山 陽 教授



柿沼 敏江 教授

移転整備基本設計が策定されました。

2018年11月30日、京都市から「京都市立芸術大学及び京都市立銅駝美術工芸高等学校移転整備基本設計」が公表されました。基本設計では、京都のまちに受け継がれてきた「通り」や「奥庭」、「軒下」などの空間要素を効果的に配置し、学部や専攻を越えた出会いによる創造的な活動が生まれ、市民や京都を訪れる人々が、まちを歩くように気軽に芸術に触れることができるキャンパスとなっています。

また、3つの地区に分かれたキャンパスに、東山や鴨川などと調和する連続的な屋根や、水平に広がる大きな床により「つながり」をつくり、京都の玄関口・京都駅と東山の文化ゾーンを結ぶ新たな拠点となるようデザインされています。



塩小路通から見た外観イメージ

今後のスケジュール

- 2020年3月 実施設計完了
- 2020～2022年度 工事（入札期間含む）
- 2023年度 共用開始（予定）



付近見取図



鴨川から見た外観イメージ



音楽ホールイメージ

ご寄付のお願い

御支援いただき、ありがとうございました。

2018年下半期中に御寄付をいただいた皆様の内、公表に同意いただいた方のお名前を掲載させていただきます。(敬称略・五十音順)

未来の芸術家支援のれん百人衆への御寄付

- 株式会社一澤信三郎帆布 巖本 博
- 株式会社大垣書店 京都みなみ会館
- ジーケー・ジャパン・エージェンシー株式会社 医療法人知音会
- 株式会社トーセ 株式会社西利
- 長谷ビルディンググループ 畑 正高
- 株式会社ハトヤ観光 株式会社細尾 渡辺 孝史

皆様から頂戴いたしました寄付金につきましては、学生の教育環境の充実のため大切に活用させていただいております。支援事例や実績につきましては本学ウェブサイト「京都芸大へのご支援のお願い」をご覧ください。 <http://www.kcua.ac.jp/>



皆様からの御支援をお願いします。

京都芸大の寄付メニュー

京芸友の会

目的：学生活動や教育研究等の充実
 募集対象：個人・法人（団体）
 受入単位：1口2千円
 主な使途：学生及び卒業生等の芸術活動支援、学生活動の支援など
 特典：オリジナルカードの贈呈、本学主催の定期演奏会への御招待※
 ※5口（1万円）以上の寄付者に限る

未来の芸術家支援のれん百人衆

目的：教育研究等の充実
 募集対象：主に地元の老舗企業等
 受入単位：1口30万円×5年※
 主な使途：機材や楽器の購入、演奏会の支援など
 ※1口あたりの金額・年数については御相談ください。